

## 1. 決意

10月5日に行われた原子力規制庁との初交渉で、原子力規制委員会に対する市民側の質問書を規制庁がブロックして、委員に見せぬまま勝手に回答していたことが明らかになりました。脱原発の民意をないがしろにして、使用済み核燃料の再処理の継続や大間原発の建設再開など、「原子カムラ」の利害を優先する流れが強まっています。その根底に、「3・11」の東京電力福島第一原発事故以降も変わらない「主権在官」の惨状があります。

私は、振り返ると80年代半ば以来、市民運動を続け、プラスマイナス、様々な経験を重ねてきました。抗議の意志を表現するアクション、後退しながらも最悪の結果を避けるためのロビイング、市民が原案を書き、議員と共に法律を作る「市民＝議員立法」運動など形は多様です。「3・11」以降は、こだわってきた軍縮・平和運動をとりあえず脇に置いて、脱原発、再稼働反対の取り組みに力を注いできました。それが、日本社会を根本的に変える機会にもなり得ると確信したからです。今まで培ってきた経験や発想などを最大限活かそうと努力してきたつもりです。

しかし、永田町と霞ヶ関には今なおぶ厚い壁がそびえています。東京電力や政府による犯罪が放置され、最大の加害政党である自民党の無責任な政権復帰さえ予想される中で、市民運動、NGOには、思い切った飛躍が求められているのではないのでしょうか。民意との乖離を埋める意志と手段が切実に求められています。このままでは、最低限の参政権である一票の権利さえ放棄する人々が増え、「おまかせ民主主義」さえ成立しない危険な状況が到来しかねません。

こうした中で、緑の党の責任と役割は極めて重大であり、あえて言えば、失敗は許されないとさえ思います。既成政党が作り出してしまった政治、政党、政治家への嫌悪や諦めを払しょくし、政治文化そのものを大胆に変えていきながら、脱原発をはじめとする重要課題に確かな結果を出していかなければなりません。

私は専門家でもなく、未熟なところも多い一人の人間です。ただ、市民運動の中でいろんな人に出会い、様々な場面をくぐってきた者として、自分の経験や発想の中に、国会の場や緑の党の中で活かせる部分があると思っています。そして、自分たちの願いを実現するためには、「おまかせ民主主義」を超えて、市民運動やNGOなどの活動家自身が国会の場に乗り込んでいくことが不可欠だと確信しています。私は、そのための呼び水にもなりたいと思います。同時に、緑の党のみならず、市民運動やNGOの仲間たちとの協働作業としての国会活動を実現したいとも考えます。

参院選が行われる2013年7月は、ちょうど原子力規制委員会が原発の安全基準を策定する時期と重なります。再稼働を許すのか、原発ゼロを確定させるのかの、決定的な岐路となります。参院選への挑戦と脱原発運動とを連動させ、今回の予備選での活動自身が、脱原発や主権在民に向けた流れを前に進めるものとなるように、心して取り組みたいと思います。へこたれなさと、したたかさとおおらかさを持ちながら。

## 2. 実現したい政策。こだわり政策。

### 1) 原発ゼロはシナリオではなく現実です

- ・「予防原則」に基づき、避難基準20ミリシーベルト(年)を見直し、雇用・住まい・家族・コミュニティを保障する避難政策を実現する。廃炉・除染労働者の安全確保と権利保障を強化する。
- ・大飯を停止、再稼働許さず、原発ゼロを確定。即時ゼロをもたらす脱原発法で原子力から撤退。
- ・「原子カムラ」を徹底的に解体し、処罰も含めて東電福島第一原発事故の責任を取らせる。

- ・原子力規制委員会、原子力規制庁を人事を含め抜本的に見直し、実質的に廃炉委員会とする。
- ・自治体の原発依存からの脱却と省エネ・再生可能エネルギーの拡大を促進。原発輸出の撤回。

## 2)「主権在官」から「主権在民」へ～「おまかせ民主主義」を超える

- ・参政権を奪う異常に高額な供託金制度の廃止。小選挙区制の廃止。議員定数を削減させない。
- ・恣意的な審議会政治の根本的な見直し。
- ・市民＝議員立法(市民が原案を作り議員と共に練り上げ法制化)の促進。
- ・熟議を踏まえた住民投票、国民投票制度など直接民主主義的制度の確立。
- ・不当なデモ規制の撤廃。警察の民主化。
- ・官僚のリコール制、代理質疑制度(議員が質問時間の一部を研究者、NGO等に譲る)の検討。

## 3)既成政党とは根本的に異なる新しい政治文化を提示する

- ・「センセイ」よさらば。国会議員は偉くない。仲間としての議員へ。
- ・NGO、市民活動家が国会に乗り込むことが当たり前となるような流れをつくる。
- ・「男の園」よさようなら。永田町と霞ヶ関に多様性を確保する。
- ・現場と共にあり、非暴力直接行動を共にできる議員へ。
- ・国会に存在する不合理、不正な仕組みをどんどん改廃。
- ・「グローバルに考えローカルに行動」し「ローカルに考えグローバルに行動」する議員、政党へ。

## 4)東アジア非核・脱原発・脱軍事化地帯を目指す

- ・領土問題の平和的解決(共同管理、共同保全へ)。
- ・オスプレイ配備撤回。沖縄などの在日米軍基地の撤廃。日米安保条約を平和友好条約に。
- ・ミサイル防衛からの撤退。軍需産業の平和産業への軍民転換。「軍事カムラ」の解体。
- ・武器輸出禁止三原則、非核三原則、宇宙の平和利用原則の再確立と法制化、世界化。

## 5)その他

- ・歩行者、自転車優先の街づくり。危険な通学路などの改修。公共交通の充実。
- ・被災者生活再建支援法の抜本的拡充。
- ・非正規雇用労働者の権利保障。建設労働者等の週休2日制の確立。
- ・生活保護法を充実させて生活保障法に。
- ・低家賃の公営住宅の増設。
- ・夏休み、冬休みをゆったりと。労働時間短縮とワークシェアリングの促進。
- ・文部(科学)省の解体。
- ・身を守り、生きていくための権利教育の推進。
- ・夕方国会の開催。閣議の傍聴の実現。

## 3. 経歴など(健康状態は良好)

- ・1965年、鳥取県生まれ。兼業農家で育つ。大学の教員養成課程に進むも、その後中退。
- ・80年代半ばから京都にて反戦・反開発・反差別などの市民・住民運動に参加。
- ・90年代前半より、東京等で反戦・軍縮等の市民運動に参加。PKO法反対や仏・中・米の核実験反対、故・小田実さんら阪神大震災被災者による住宅再建への公費支給を求める「市民＝議員立法」運動、ミサイル防衛反対運動等に参加。『宇宙開発戦争』(作品社)に日本語版解説を執筆。
- ・2000年代より、みどりのテーブル、みどりの未来に参加。建築関係で10数年働くも不当解雇、労組に加入し一定の解決。11年7月よりみどりの未来・脱原発担当、緑の党結成準備委員も経て、緑の党・脱原発担当。福島原発事故緊急会議、eシフト、再稼働反対！全国アクションにも参加。
- ・NHKのテレビドラマ『ハゲタカ』『クライマーズ・ハイ』を愛する。紙媒体の収集癖が悪いクセ。